

平成 17 年 3 月期 第 3 四半期財務・業績の概況（連結）

平成 17 年 2 月 10 日

上場会社名 株式会社 MARUWA

（コード番号：5344 東証・名証第 1 部）

（URL <http://www.maruwa-g.com>）

代表者 代表取締役社長 神戸 誠

問合せ先 取締役管理部長 奥村研二 （Tel 0561-51-0839）

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 無

最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有

平成 16 年 4 月 1 日付けで新規連結子会社が 1 社増加しました。（除外はありません。）

・株式会社金門コルツの全株式を取得し、株式会社 MARUWA QUARTZ と社名を変更しました。

2. 平成 17 年 3 月期第 3 四半期財務・業績の概況(平成 16 年 4 月 1 日～平成 16 年 12 月 31 日)

(1) 経営成績（連結）の進捗状況

[百万円未満：四捨五入]

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17 年 3 月期第 3 四半期	11,913	35.7	1,066	195.2	1,323	141.5	1,107	204.1
16 年 3 月期第 3 四半期	8,781	11.5	361	19.9	548	76.2	364	136.4
(参考)16 年 3 月期	12,003		686		936		475	

	1 株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後 1 株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
17 年 3 月期第 3 四半期	102	29	102	12
16 年 3 月期第 3 四半期	-	-	-	-
(参考)16 年 3 月期	42	67	42	67

(注 1) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示します。

(注 2) 平成 16 年 3 月期第 3 四半期、平成 17 年 3 月期第 3 四半期とも、監査法人による監査は受けておりません。

経営成績の概況

デジタル家電の活況と好調な半導体生産装置市場に牽引された第 2 四半期に比べ、当第 3 四半期は海外市場を中心に在庫調整期にあり、受注レベルが低減しました。

当期 9 ヶ月間の連結売上高では、上半期の好調な受注に加え、4 月からグループに加わったガラス事業の新規子会社による増収などの結果、前年同期比で 35.7% 増となりました。直前の第 2 四半期と比べると 5.6% の減少となりましたが、第 4 四半期に入り、全体としてゆるやかな回復傾向にあります。

利益面では、受注減による利益圧迫要因があった一方、上半期に工程在庫の圧縮を推進した成果が当第 3 四半期に顕在化してきました。その結果、圧迫要因を吸収して利益の獲得につながり、前年同期比では 195.2% と大幅に増加し、利益体質が改善されました。また、直前の第 2 四半期比では売上が減収でありながら、営業利益はほぼ同等の結果となり、弾力性が高まってきたものと考えております。

事業部門別の概況

事業部門別の売上高推移（連結）

（百万円）

	前 期 (平成16年3月期)		当 期 (平成17年3月期)			
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q(予)
回 路 部 品	1,396	1,492	1,746	1,566	1,479	1,515
機 構 部 品	682	718	1,363	1,376	1,257	1,260
高 周 波 部 品	271	255	259	270	302	305
EMC 対策部品	708	758	808	768	720	720
合 計	3,057	3,223	4,176	3,981	3,758	3,800

回路部品部門

第3四半期の売上高は1,479百万円となり、前年同期比では5.9%増加したものの、直前の第2四半期と比較しますと5.6%減少しました。

抵抗器用基板は日系メーカーからの受注が比較的堅調であったものの、台湾系メーカーからの受注は在庫調整によりブレーキがかかり低迷しました。しかし、この調整も第4四半期に入り緩やかな回復傾向がみられます。大型基板は横這いながら、今後の欧州市場向け製品が期待されます。窒化アルミニウム基板は欧米市場への拡販が徐々に成果を上げはじめております。

機構部品部門

第3四半期の売上高は1,257百万円となり、直前四半期比で8.7%減少しました。

石英ガラス製品の主力市場である半導体生産装置市場からは、当上期の間、高水準な受注を受けておりましたが、第3四半期に入り緩やかな調整期間に入っております。当社としては当四半期の間、4月から新たにグループに加わった株MARUWA QUARTZを含め、今後の効率的な事業拡張を企図して生産拠点の再編に注力し、同時に各拠点では生産性を向上させる体制を敷きました。

FDD用磁気ヘッドサポート材は、業界全体の事業再編が加速する中、上期に高水準な受注を獲得するに至りましたが、当四半期は流通在庫の増加により調整期間に入っております。FDD関連品のアプリケーションを拡大して、より高いシェアの獲得を図っております。

高周波部品部門

第3四半期の売上高は302百万円で、直前四半期に比べ11.7%の増加となり、継続的に売上が拡張してきております。デバイス製品は中国向け通信市場の動向が不透明な中、アプリケーションを広げて柔軟な対応を図り、増収につなげています。第2四半期から回復が顕著になってきた誘電体セラミックは、LNB（低雑音コンバータ）製品を中心に堅調な推移を示しています。薄膜製品は開発経費を吸収できる水準の生産体制を構築し、DVD機器向けの製品を中心に今後の拡販に備えております。

EMC対策部品部門

第3四半期の売上高は720百万円と、直前四半期比で6.3%の減少となりました。

電磁波対策部品としてのEMIフィルタは、携帯電話用基地局の市場に加え、アミューズメント機器市場から好調な受注があり、今後の伸長が期待されます。また、全社的に参入を強化している自動車部品市場からも受注が拡大してきており、今後の増収を見込んでおります。

(2) 財政状態（連結）の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
16年12月31日(当第3四半期末)	28,523	23,995	84.1	2,226 47
16年3月31日(前期通期末)	26,664	23,429	87.9	2,144 11
15年12月31日(前第3四半期末)	26,766	23,465	87.7	2,134 56

当第3四半期末における連結の総資産は28,523百万円となり、当期9ヶ月の営業活動の結果、前期期末と比較して1,859百万円増加しました。このうち1,666百万円は4月から新規に連結子会社となった㈱MARUWA QUARTZによる増加分です。現預金が602百万円増加する一方、グループ全社で棚卸資産を600百万円削減し、在庫資産の効率性を向上させております。

株主資本については前期期末と比べ、9ヶ月間で利益剰余金が943百万円増加する一方、自己株式を279百万円購入したことなどにより、566百万円の増加となりました。

3. 平成17年3月期の連結業績予想

平成17年2月7日に通期の連結業績予想を上方修正しております。

	(修正後)	(修正前)
売上高	15,700百万円	15,700百万円
経常利益	1,710百万円	1,390百万円
当期純利益	1,200百万円	870百万円

経常利益修正の主要な要因は、下記のとおりです。

- (1) これまで開発経費の負担が大きかった製品が利益貢献してきたこと
- (2) 上半期の間、全社レベルで工程在庫の圧縮に注力し、フレキシブルな生産体制の構築を推進してきた成果が下半期に顕在化してきたこと。その結果、下半期の受注減少にともなう利益の圧迫を吸収し、前回の利益予想を上回る着地になると見込んでおります。
- (3) M & A後の事業再編による経費負担を見込んでいた機構部品のガラス事業において、効果的な再編の実施と市場への積極的なアプローチが奏効し、利益の獲得に貢献したこと。

当期利益の修正は、本年1月1日付けで連結子会社を本体に吸収した際、この子会社の精算も含めた税効果が当初の見込み以上に増益調整として発生したことによります。

1. 四半期連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

	当期 17年3月期 平成16年12月末	前期 16年3月期 平成15年12月末	前期比増減 金額	前期 16年3月期 平成16年3月末	当期中増減 金額
（資産の部）					
流動資産	14,784	13,336	1,448	13,554	1,230
現金及び預金	6,804	5,871	933	6,202	602
受取手形・売掛金	4,993	3,714	1,279	3,740	1,253
たな卸資産	2,680	3,431	751	3,280	600
その他	307	320	13	332	25
固定資産	13,739	13,430	309	13,110	629
有形固定資産	11,029	10,918	111	10,710	319
無形固定資産	328	384	56	369	41
投資その他の資産	2,382	2,127	254	2,031	351
資産合計	28,523	26,766	1,757	26,664	1,859
（負債の部）					
流動負債	2,682	2,056	626	2,030	653
支払手形・買掛金	904	616	287	670	233
短期借入金	-	-	-	-	-
その他	1,779	1,441	338	1,359	420
固定負債	1,845	1,245	601	1,205	641
長期借入金	375	520	146	482	108
退職給付引当金	859	150	709	176	683
その他	612	574	37	547	65
負債合計	4,528	3,301	1,227	3,235	1,293
少数株主持分	-	-	-	-	-
（資本の部）					
資本金	6,683	6,683	0	6,683	0
資本剰余金	9,710	9,710	0	9,710	0
利益剰余金	9,459	8,404	1,055	8,516	943
その他有価証券評価差額金	10	17	7	38	28
為替換算調整勘定	1,286	1,147	140	1,215	71
自己株式	581	202	379	302	279
資本合計	23,995	23,465	530	23,429	566
負債、少数株主持分及び資本合計	28,523	26,766	1,757	26,664	1,859

2. 四半期連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

	当期 17年3月期 第3四半期 (9ヶ月累計)		前期 16年3月期 第3四半期 (9ヶ月累計)		増減		(参考) 16年3月期 通期 (12ヶ月累計) 平成15年	
	金額	売上 比	金額	売上 比	金額	率		売上 比
売上高	11,913		8,781		3,133	35.7	12,003	
売上原価	8,602	72.2	6,715	76.5	1,888	28.1	9,022	75.2
売上総利益	3,311	27.8	2,066	23.5	1,245	60.3	2,981	24.8
販売費及び一般管理費	2,245	18.8	1,705	19.4	540	31.7	2,295	19.1
営業利益	1,066	9.0	361	4.1	705	195.1	686	5.7
営業外収益	337	2.8	267	3.0	70	26.1	352	2.9
受取利息および配当金	14		9		5	55.9	13	
受取賃貸料	84		78		6	8.1	106	
連結調整勘定償却額	117		89		27	30.6	119	
その他の	61		67		6	8.5	83	
為替差益(差損)	60		24		37	153.3	30	
営業外費用	80	0.7	81	0.9	0	0.5	101	0.8
支払利息	9		10		1	14.9	13	
投資固定資産賃貸費用	40		47		7	14.5	62	
その他	31		24		8	33.6	27	
経常利益	1,323	11.1	548	6.2	775	141.5	936	7.8
特別利益	3	0.0	2	0.0	1	59.8	2	0.0
特別損失	310	2.6	42	0.5	268	634.6	227	1.9
たな卸資産廃棄損	198		0		198		100	0.8
たな卸資産評価損	0		0		0		56	0.5
固定資産除売却損	46		42		3	8.2	51	0.4
その他特別損失	67		0		67		21	0.2
税金等調整前 当期純利益	1,016	8.5	507	5.8	508	100.2	711	5.9
法人税等	291	2.4	95	1.1	197	207.9	112	0.9
法人税等調整額	383	###	49	0.6	432	887.8	124	1.0
当期純利益	1,107	9.3	364	4.1	743	204.1	475	4.0